

令和6年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和6年10月31日

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数・意識調査）の本校の結果をお知らせします。国語と算数については、学習指導要領の内容別の主な課題と改善に向けた取り組みについてまとめています。また、生活習慣に関する児童質問紙調査については、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の課題が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

国語科

- ◆多くの児童が取り組めている記述問題もあるが、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導の充実が大切である。
- ◆人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- ◆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。

算数科

- ◆図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。図形を構成する要素を見だし、活用できるように指導することが必要である。
- ◆速さを道のりと時間の関係から捉えることはできているが、速さの意味について理解することに課題がある。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが大切である。
- ◆折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるように指導することが大切である。

【本校の全体の正答率について】

国語の全体の正答率は、国の平均を大きく下回り、県の平均をやや下回っています。
算数の全体の正答率は、国の平均をやや下回り、県の平均とほぼ同じです。

【個票の配付について】

児童の結果（個票）については、6年生児童に前期通知表とともに配付しています。なお、国が採点を行っているため解答用紙の返却はできませんのでご了承ください。

【今後の取り組みについて】

本校では、8月に職員研修を行い、今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、授業の改善等に生かし、学力の向上を図っていきます。家庭学習の具体的な取り組み・お願いについては、「授業及び家庭学習の取り組みについて」を配付しています。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着を図ることができます。本校の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・学習指導要領の内容では、6項目中4項目が県平均とほぼ同じであった。「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」は大きく下回っていた。
- ・評価の観点では、「知識・技能」は県平均とほぼ同じであった。「思考・判断・表現」は大きく下回っていた。
- ・問題形式では、「選択式」「短答式」は県平均とほぼ同じであった。「記述式」は大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	【情報の扱い方に関する事項】 ・2一(2) メモの書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する問題は、県平均を大きく下回った。イメージマップなどの思考ツール活用経験はあるものの、それを分析したり正確に理解したりする力が不足していると考えられる。 【我が国の言語文化に関する事項】 ・2三 ひらがなを漢字で書き直す問題では、正答率は県平均とほぼ同じだったものの無答率が高かった。	【情報の扱い方に関する事項】 ・資料を丁寧に読み取ったり、複数の情報を見比べたりして、一つ一つの情報が表しているものを正確に理解できるような活動を授業の中に設けていく。友達の思考ツールと見比べ、それを言語化できるような活動に取り組みさせる。 【我が国の言語文化に関する事項】 ・日記などで日頃から漢字で書く習慣をつけさせる。 ・クロームブックなどICTを活用し、漢字を正確に覚えられるようにする。
思考・判断・表現	【書くこと】 ・2二 取材メモをもとに文章にまとめる問題は、県平均を大きく下回った。無答率はやや高かった。文章を見比べて必要な情報を抜き出したり、それをもとに文章をつくったりする力が不足していると考えられる。 【読むこと】 ・3三 物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題は、県平均を大きく下回った。さらに無答率も高かった。長文をじっくり読んでいないことも要因と考えられる。	【書くこと】 ・資料を読む際には、重要なところに線を引かせたり、文章の要旨をとらえてまとめさせたりするなど、情報を整理して自分でまとめる学習に取り組みさせる。 【読むこと】 ・読書タイムを活用し、本にじっくり親しむ時間を確保する。学年相応のものなど本の精選をする。 ・物語教材を扱う授業では、初発の感想で文の引用や文字数などの条件をつけて書かせる活動を取り入れる。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

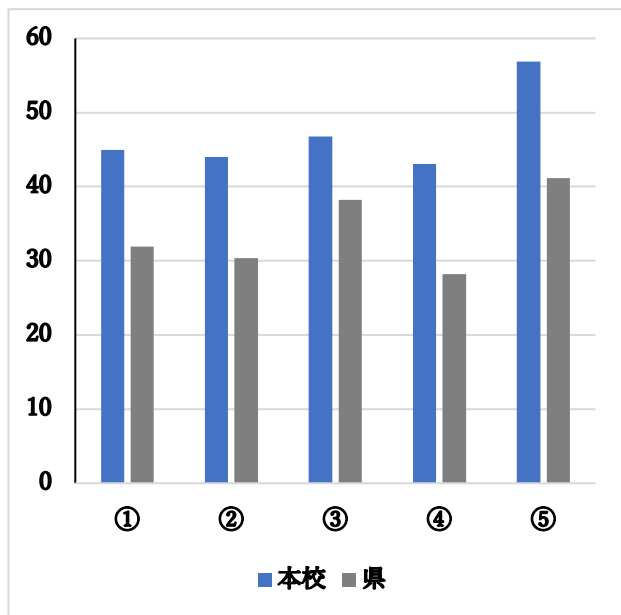
- ・全体の正答率は県の平均とほぼ同じ、全国の平均を下回っている。
- ・領域別では、どの領域もほぼ県平均と同じである。ただ、「数と計算」「図形」「データの活用」については、全国平均より下回っている。
- ・評価の観点別においても、県平均とほぼ同じであり、「知識・技能」は全国平均より下回っている。
- ・問題形式別においても、県平均とほぼ同じである。全国平均と比較すると、「選択式」「短答式」は下回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	【数と計算】 ・① (1) 問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題において、問題文の言葉のみにとらわれ、数量関係を正確にとらえていない。 ・② (2) 除数が1より小さい場合の小数のわり算において、計算問題としてはできて、商が被除数より大きくなることを理解できていない。 【変化と関係】 ・④ (4) 連続した道のりを自転車で行く場合の速さを求める問題において、与えられている前半の速さと後半の速さの和として捉えている。「速さ」の意味を正確に理解できていない。 【データの活用】 ・⑤ (2) 問題文からデータのどの部分に着目すべきか理解できていない。	【数と計算】 ・問題場面の数量関係を捉えるために、各学年に応じた図をかかせる。 ・問題場面を生活に即したものとすることで、除数が1より小さい場合、商が被除数より大きくなることを実感させる。 【変化と関係】 ・速さの意味について、図などを手がかりに道のり÷時間であることを理解させる。 【データの活用】 ・問題に応じて、データの必要な部分に着目させるために、データへの書き込みをさせ、データの取捨選択ができるようにする。 ・デジタルコンテンツなどを活用して、与えられたデータやグラフから何が読み取れるのかを授業の中で1つずつ確認したり、友達同士で出し合わせたりして共有させる。
思考・判断・表現	【図形】 ・③ (3) 球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さと同じになることを捉えることができていない。 ・③ (4) 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題では、問題にある条件に即した記述ができていない。 【データの活用】 ・⑤ (3) 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題において、無回答が多い。 【変化と関係】 ・④ (2) 速さが一定という条件をもとに、道のりと時間の関係を考えることに課題が見られる。	【図形】 ・図形に関わる数学的な活動を通して、用語の体験的な理解を深め、身の回りのものを図形としてとらえることができるようにする。 ・基礎・基本の問題だけでなく、学習の理解状況に応じて応用的・発展的な問題にも柔軟に取り組ませる。 ・図形を観察する活動を通して、図形を構成する要素に着目させ、底面や側面という用語を用いて説明し合う時間を設定する。 【データの活用】 ・解答に必要なデータを読み取り、問題文のどの部分、どの数値を基に判断したかを他者に分かるように伝えさせる。 ・話し合いや教え合い、分かることの共有など問題解決型の学習活動を取り入れ、説明し合う時間を設定する。 【変化と関係】 ・変わる条件と変わらない条件を明確にし、公式をうまく活用することで、道のり・速さ・時間の関係をつかませる。

◆生活習慣に関する調査「6年質問紙（意識調査）」R6

【 数値が特に高かった項目（県平均との比較） 】

	調 査 の 項 目
①	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている児童の割合
②	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えている児童の割合
③	英語の勉強が好きな児童の割合
④	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している児童の割合
⑤	英語の授業の内容がよく分かる児童の割合

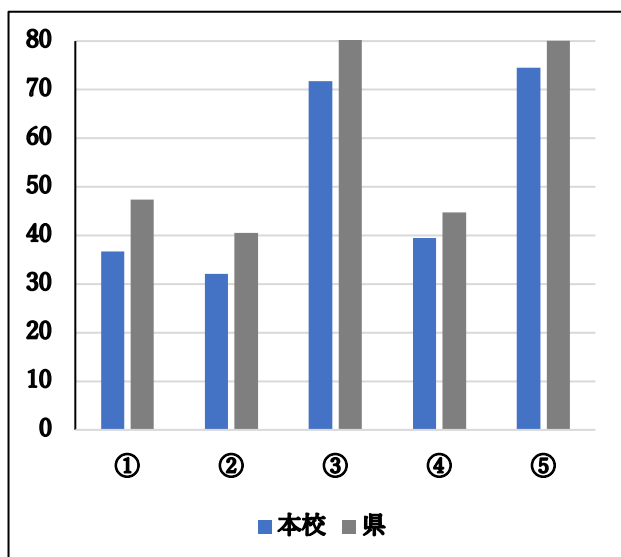


【分析と取組】

- ・① 算数の問題で、いろいろな解き方を考えることができる児童が多い。今後も、既習の内容を生かしながら、工夫して解くことができるよう指導していきたい。
- ・②、④ 国語の授業で、話す内容の構成を考えることができる児童が多い。今後も、話の流れを考えながら、話を組み立てる授業を仕組んでいきたい。
- ・③、⑤ 英語の授業が好きな児童、英語の授業の内容を理解している児童が非常に多い。英語専科の教員がいるので、様々な工夫を行った授業ができている。引き続き、児童の意欲を高め、英語への理解を深めることができる授業づくりを心掛けていきたい。
- ・④ 国語の授業で、類似点や相違点を意識したり、図を使ったりしながら、情報を整理することができる児童が多い。今後も、目的に応じた様々な思考ツールを活用しながら、情報を整理する場を設定していきたい。

【 数値が特に低かった項目（県平均との比較） 】

	調 査 の 項 目
①	普段(月～金)、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合
②	携帯電話・スマホにおける家庭でのルールをきちんと守っている児童の割合
③	算数の問題(言葉や数式を使ってわけや求め方を考える)で最後まで解くために努力した児童の割合
④	土日、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合
⑤	国語の問題(文章を書く)で最後まで解こうと努力した児童の割合



【分析と取組】

- ・①、④ 月曜日から金曜日、また土日当たりの勉強している時間が短いことから、家庭学習の定着ができていない。低学年のうちから決められた家庭学習の時間を達成できるように家庭と連携を図りながら意識付けをしていきたい。
- ・② SNS やオンラインゲームでのトラブルも増えてきている傾向にあるので、家庭への注意喚起と情報モラル教育の機会を増やしていきたい。
- ・③ 普段の授業の中で、解答の型や図、式、言葉などをキーワードにして説明する活動を増やし、慣れさせる。
- ・⑤ 問題を理解できていないことが予想される。児童書や教科書に紹介されている本などを紹介し、読書の質を高める。